

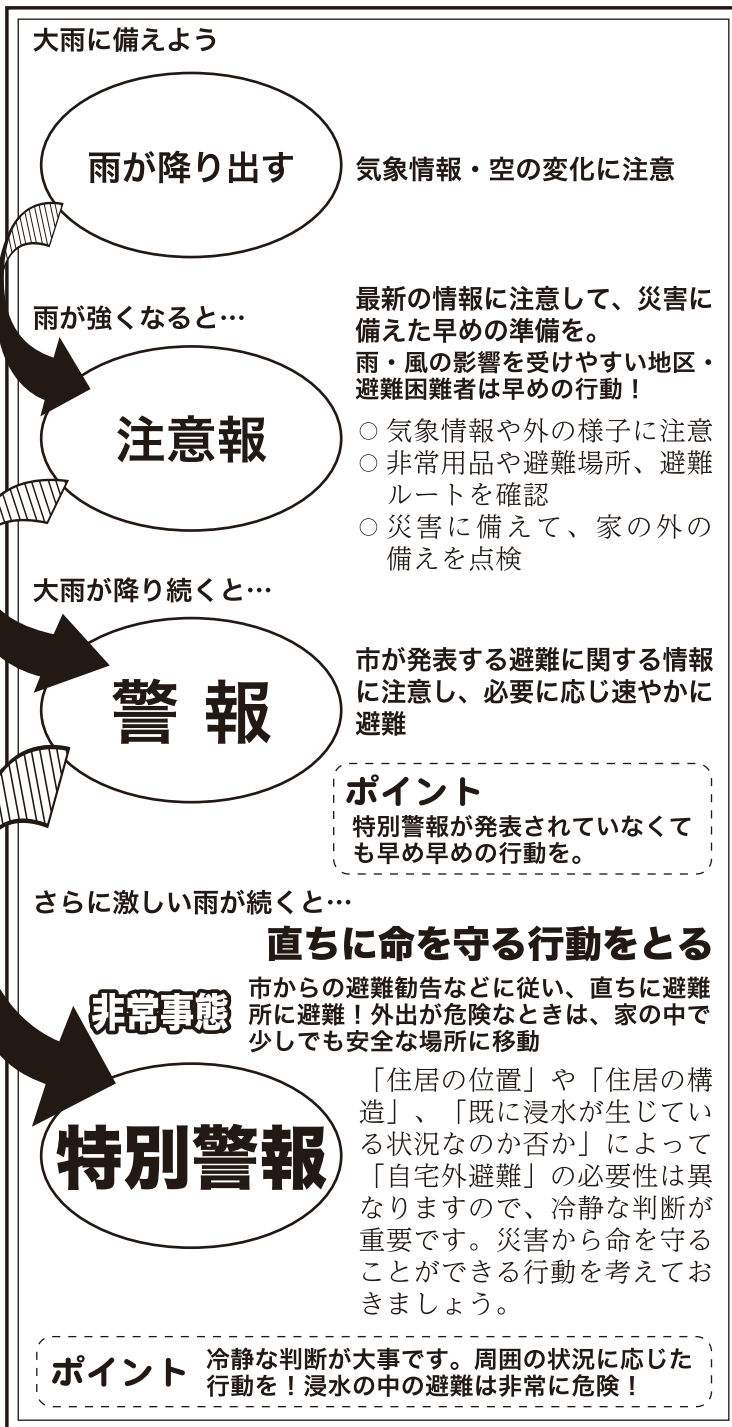
うれ 備えあれば憂いなし

問い合わせ 総務課 ☎2119

家族で、地域で、職場で防災について考えてみましょう。

ポイント防災①

大雨災害から身を守るために、
危険箇所や避難場所などを把握しよう



「災害は、忘れたころにやってくる」と言われますが、近年、全国各地また世界各国で大規模な自然災害が頻繁に発生しています。私たちは、映像でその恐ろしさを目の当たりにし、安全に安心して過ごせる日々の尊さを痛感しています。わが国は、自然災害の多い国、「災害は、必ず起こる」と肝に命じていざというときに備えることが大切です。

市に大きな被害をもたらした近年の災害として、地震では、平成13年の芸予地震、風水害では、平成16年の台風18号、平成17年の台風14号な

どが記憶に新しいところです。また、最近では、ゲリラ豪雨と呼ばれる集中豪雨が全国各地で発生しています。昨年は、市内でも7月4日に立戸の雨量観測所で1時間39・55ミリ、栗谷で49ミリ、また8月24日には、立戸で32・5ミリ、湯舟で50ミリと、土砂くずれなどの災害が心配される激しい雨が降りました。この時には、大きな災害には至りませんでした。この時には、激しい雨が長く降ると家屋の浸水や土砂災害など私たちの生命や財産をおびやかすような事態になりかねません。気象庁は、昨年「特別警報」の発令の運用を始めました。数十年

に1回の大雨が予想されるような場合に、住民の生命を守るため、これまでになような重大な危険が迫っていることをお知らせして早期避難などにつなげることにしたものです。

市もこのような近年の気象状況、災害の態様などを鑑みて、市民の皆さんへの迅速な情報伝達など、災害初動対応の円滑化また、平素からの減災対策など、防災意識の向上に努めていきたいと考えており、今年度は、「防災シリーズ」として毎月、防災情報を掲載します。

黒川自治会連合会自主防災部は、平成19年に黒川地区の4つの自治会で構成される黒川自治会連合会の組織内に設立され、定期的な防災訓練の実施や地域の「安全・防災マップ」の作成など熱心な活動が続けています。今回は、岡野会長に自主防災活動の必要性や取り組み方についてお話を伺いました。

Q1 自主防災組織を立ち上げたきっかけ

大竹市は、海あり、川あり、山あり更に沿岸にはコンビナートもあり、災害と言っても地域でそれぞれ異なります。黒川地区もかつて台風で大膳川が氾濫して大きな被害がありました。地域のことをよく知っている住民が自ら防災に関心を持って活動することがいざというときに役立つという思いで立ち上げました。

Q2 手づくりの地域の「安全・防災マップ」を作成した目的は

まずは、地域の危険箇所や通学路などを住民が確認し合い、協力し合っって作成することを心がけました。自治会連合会の自主防災部、交通防犯部、文化部、PTAの方など皆で話し合い、作成しました。地域の実情に沿った身近なマップとして役立てたいです。昨年、作り変えて、海

抜や気象警報の情報も取り入れました。黒川地区の場合、国道2号、JR線路、高速道路があり、これらが防災上の重要なポイントになっています。例えば「津波が来たらJRの線路より山側に避難しよう」など住民の意識付けにも利用できると思っています。このマップは、各世帯に配布しており、自治会掲示板にも貼る位置を決めています。常に目の止まる場所に置くことで住民に防災意識を持ってもらいたいのです。

Q3 自主防災活動の取り組み方について工夫されていることは

避難所である集会所には、ドラム缶に雨水を貯め、緊急時に利用できるようにしています。土のうも30袋作り、いざというときに備えています。また、市が災害対策本部を設置したという連絡が入れば役員が集会所に集合し、避難者の受け入れや地域の細かいところまでのパトロール

地域の実情をよく知り 災害に備える

―黒川自治会連合会 岡野会長に聞く―



黒川地区安全・防災マップ

などを実施します。被害があれば市に報告します。

Q4 これからの自主防災活動に 対しての思いを

地域でそれぞれ災害の種類は違うので、地域の実情に合った活動が必要です。防災マップもそれぞれの地域で住民自らが危険箇所などを把握して作ることに意味があると思います。それから防災訓練は、同じこと

でも繰り返すことが大切です。2月の関東地方の大雪災害では孤立した道路で立ち往生した車に近隣住民が炊き出しで支援したという話がありました。どの災害でも炊き出しは必要になります。炊き出し訓練は、釜などでご飯を炊くので、高齢者の経験や知識が役立ちます。このことで世代間のコミュニケーションもとれるし、地域のつながりも深くなると思います。また、自主防災活動を継続していくうえでは、どうしてもまとめ役が必要です。役員には、他の地域の訓練や研修に積極的に参加してもらい、まずは見て経験することが大切と思っています。行政には研修や訓練の情報提供や他の組織との連携などの役割を果たしてほしいです。



黒川自治会連合会 会長 岡野さん